

■ EM野菜の育て方 4 ■

ジャガイモ

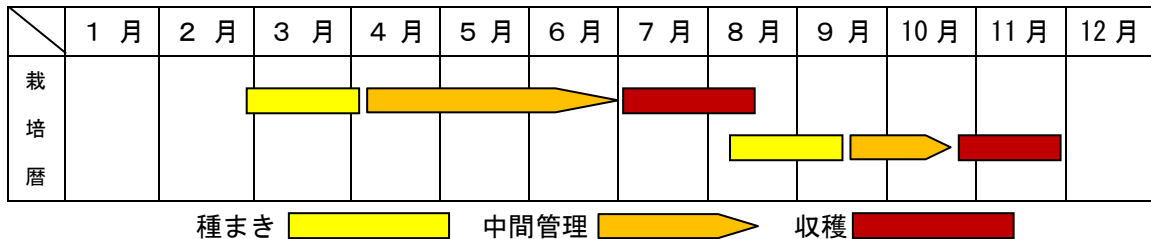
科目：ナス科 原産地：南アメリカ（アンデス山脈周辺）

【特性】

* 発芽適温・10～20℃ * 栽培適温・18～25℃ * 最適 PH・5.5～6.5

- ・ジャガイモは地下茎が肥大したものです。
- ・別名「馬鈴薯」「ジャガタライモ」等。
- ・ビタミンが豊富で、フランスでは「大地のリンゴ」と呼ばれることもあります。
- ・8月種芋植付けで秋収穫もできます。（二化生作物という）。
- ・上手に作れば種芋の15倍以上の収穫ができます。
- ・品種がいろいろあるので、最適のものを選んで栽培すると良いでしょう。

栽培カレンダー



栽培方法

1. 畑の準備

植付けの2ヶ月前にはEM3点セット（EMボカシ、EMスーパーセラ発酵C、EM活性液）を使って土作りをしておきます。

2. 種芋の植付け

- ① 種芋は30g～40gのものを切らないで丸ごと植付けます。植付ける場所がまだ熟畑となっていない場合の種芋は50gと大きめのものを丸ごと切らずに使います。覆土は5cm～6cm。種芋の厚さ分くらいを被せます。株間は30cm～45cmとします。
※ 種芋は病害虫の予防から検定済みのものを購入することをお勧めします。
- ② 植付けが終わったら畝全体の地表へEMボカシとEMスーパーセラ発酵Cを撒いておきます。種芋植付け時には水やりはしません。



1. 種芋は芽の多いほうを上に入します。



2. 覆土は5 cm~6 cm。50 gの種芋は8 cm位を被せます。



3. 畝巾90 cm~80 cmの1条植え、株間は30 cm~45 cmとします。

3. 中間管理

ジャガイモは茎が肥大することから、種芋の上で芋ができます。芋が土の外に出ると緑色になり、有毒なソラニンを含むようになってしまいます。

そこで、土寄せの管理は重要です。一回に厚く土寄せをすると生長が悪くなるので、数回に分けて行います。黒マルチを使って土寄せをしない方法もあります。

- ① 1回目の土寄せは草丈15 cmの時にに行います。両サイドよりドーム型に土寄せし、EMボカシ、EMスーパーセラ発酵Cを全面施用します。
- ② 2回目の土寄せと追肥は草丈30 cm位の時、3回目の土寄せと追肥はジャガイモの花のつぼみが付きだしたところに行います。



- ※ 雨がなく乾燥する場合は、畝間へ灌水します。灌水する場合はEM活性液と一緒に投入します。上からの水やりはしなくてもよいでしょう。畝間灌水をたっぷりとします。
- ※ 枯れた葉がある場合は病害虫の原因となる可能性があるため、早めに取り除きます。また、水はけが悪い場合は病害にかかり易いので、水はけを良くするように注意が必要です。
- ※ コンパニオンプランツとして、「ニンニク」「ローズマリー」などの混栽も効果があります。



4. 収穫

地上部が枯れてきたら収穫をします。ジャガイモの花が咲いた後30日位が収穫目安です。試験掘りをして生育が良ければ、収穫します。

- ※ ジャガイモの皮をむいたり疵をつけたりすると日持ちが悪く劣化するので注意して収穫します。掘り残しがあると「野良イモ」となって、他の作物の生育妨害や病害虫の発生など悪影響が出ますので、小玉の芋まで残さないように丁寧に収穫します。



ここがポイント！

1. PH5.5～6.5と弱酸性を好む作物なので、元肥に石灰を使う必要はありません。土壌によっては、元肥に草木灰を使うと良いイモが収穫できます。
2. 種芋植付け時には、水やりは行いません。
3. 水はけを良くすることと、病害葉、茎はすぐに抜き取り処分すること。
4. 秋ジャガイモは春植えよりも難しいです。残暑の時期に種芋植えとなるので、わらマルチなどで地温を下げたり、芽かきをして2～3本仕立てとし、小玉にならない工夫が必要です。

◆ジャガイモの種類

インカのめざめ	黄色の濃さと栗のような味わいで人気
キタアカリ	栗に似た食感と強い甘みで人気、煮炊時間早くビタミンCの含有が一番多い
シェリー	貯蔵性に優れ、フランス産の赤皮
シャドークイーン	紫色が濃く、しっとりした食感、味がよい
十勝こがね	ホクホクした食感、甘みが強く貯蔵性がある
ノーザンルビー	鮮やかな赤色で収穫量も多い
普賢丸	早期肥大がよく、やや糖質でおいしい
らんらんチップ	ポテトチップ用として注目されている
レッドムーン	ほんのり甘くどんな料理にも合う

◆秋作に向く品種

デジマ	アンデス赤	普賢丸
ニシュタカ	農林一号	アイノアカ